



読書活動への扉を開く！

No. R6-7

桑村小学校 令和6年7月17日 文責：関口 直

読み聞かせが読みの理解を深めます！

7月11日（木）マルベリーの方々による読み聞かせが行われました。今回もみなさん、とても素敵な本をそれぞれの学年で読み聞かせてくれました。校長は、6年生の読み聞かせに入りました。「綱渡りの男」というお話を読み聞かせしました。今はなき世界貿易センタービルの中に綱



マルベリーによる読み聞かせ①



マルベリーによる読み聞かせ②

を引いて渡った実話に基づくお話です。とても危険な行為であり、実際にこの男は警察に捕まっています。そんな常識外れの男ですが、それを見た人たちに感動を与えました。もう一つ「人にはどれだけの土地がいるか」という本も紹介しました。このお話の主人公は土地を広げることに一生懸命だった男の話です。この男は欲張りすぎて最終的に亡くなってしまいます。自分は、綱渡りの男と実は同じなのではないかと思いました。一方は綱渡り、一方は土地でしたが、どちらも命がけで挑み、結果は上記の通りです。一体、何が違うのか。6年生に問いかけました。時間の関係で議論はしませんでした。人が生きる上で大事にすべきことは何か、考えてほしいと思いました。マルベリーの方々の読み聞かせも、一人一人がその本へ思いをしっかりともって、熱心に読み聞かせをしてくれています。本の内容ももちろんですが、そんな本に対する熱い思いが何よりも子どもたちの心に読書の火を灯してくれているようで、本当にありがたいです。人権教室でも、人権擁護委員の方々が読み聞かせをしてくれました。読み聞かせを通して、多くのことが子どもたちに伝えられていきます。直接、伝えたいことを語りかける以上に、子どもたちをより深い理解へと導く読み聞かせ。引き続き感性を育む読み聞かせが盛んになることを期待したいと思います。



人権教室読み聞かせ①



人権教室読み聞かせ②

<『「読み」の整理学』から味読について考える！>

「思考の整理学」で有名な外山滋比古さんの本です。この中で、外山さんは、読みをアルファ読みとベータ読みに分けて考えています。すでにわかっていることを読むのがアルファ読み。例えばテレビで見た野球中継の記事を新聞で読むようなものです。すでにわかっていることなので、スムーズに読めます。一方、ベータ読みは、教科書を読むことを例にしています。まるでわからない未知のことを文字から想像し読んでいく。これは流し読みでは無理で、何度も繰り返し読みながら一つ一つ確認していく作業が必要です。どちらの読みも大事ですが、今は時間のかかるベータ読みが少なくなり、アルファ読みの本ばかりが売れるから、そっちに流されているというご指摘です。多くの示唆に富む内容で、ここですべてをお知らせできませんが、「味読」がまさにベータ読みにあたります。楽しむ読書から味わう読書へと進化をしようとしている桑村小にとって、とても参考になる内容でした。

